

宮城県林業普及活動情報

2024. 6月号 No. 193

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2～9

- 「木育」×「食育」プログラム～手作り木製箸で給食を食べよう～
(大河原地方振興事務所)
- 森林経営管理制度伴走支援市町村選定のためのヒアリング (大河原地方振興事務所)
- 丸森町産たけのこの出荷に関する打合せ (大河原地方振興事務所)
- 大河原産業高校1年生向け林業PR (大河原地方振興事務所)
- こけしの材料となるミズキの生育範囲調査(5月からの継続) (北部地方振興事務所)
- 小学生を対象とした「おおさき山がっこ」の開催 (北部地方振興事務所)
- 林業研究会等への支援 (北部地方振興事務所)
- 「第2回おおさき未来の森づくり2024」への支援 (北部地方振興事務所)
- 管内菌床きのこ生産事業者に対する経営指導 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 林業教室の現地研修実施 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 森林経営管理制度・森林環境譲与税の活用に関する打合せ
(東部地方振興事務所)
- 特別防除現地立ち合い (東部地方振興事務所)
- 津山小学校林業体験学習支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 気仙沼産メンマの販売 (気仙沼地方振興事務所)
- 宮城県農林種苗農業協同組合迫支部との合同意見交換会の開催in気仙沼
(気仙沼地方振興事務所)
- 令和6年度林業普及指導員育成研修 (林業技術総合センター)

「木育」×「食育」プログラム ～手作り木製箸で給食を食べよう～

大河原地方振興事務所

【13日(木)】

当所地方振興部主催の「キャリア教育プログラム」において、林業振興部で「木育」×「食育」プログラムとして、児童を対象とした「箸づくり」を実施しました。

当日は、講師の先生と連携して、児童全員が安全に作製できるようアドバイスや作業のお手伝いをしたほか、キャリア教育の一環として、若手職員から、私たち県の林業職員が日頃どのようなことをしているか、また、森林環境パネルを掲示しながら、森林の働きなどについてお話ししました。また、あわせて令和7年度に宮城県で開催される、全国育樹祭のPRを行いました。

児童たちは、かな掛けに途中苦戦しつつも、アドバイスを受ながら全員が安全に箸づくりを終えることができ、「自分で作った箸で早くご飯を食べたい!」「またやりたい!」と嬉しい感想を聞くことができました。

今後も、こうした木と触れ合う機会をすることで、子供たちにとって森林や木が身近な存在になるよう、普及啓発を行っていききたいと思います。



【当日の様子】

森林経営管理制度伴走支援市町村選定のためのヒアリング

大河原地方振興事務所

【17日(月)、25日(火)】

森林経営管理制度伴走支援を希望する市町村の要望を取ったところ、当管内では昨年度に引き続き、白石市と川崎町から要望がありましたので、関係機関と連携して、現状と課題のヒアリングを行いました。今後、ヒアリング結果を踏まえ、関係機関と連携を図りながら継続して指導助言を行っていきます。



【ヒアリングの様子】

丸森町産たけのこの出荷に関する打合せ

大河原地方振興事務所

【25日(火)】

令和6年の丸森町におけるたけのこ出荷が終盤となったことから、来シーズンに向けて、実施状況や課題等の整理、検査体制の確認を行いました。

これまでの取組を踏まえながら、各地区において必要な検査内容や流れについて再確認するとともに、関係者の意思疎通を図ることができました。

令和7年春に向け、引き続き、関係機関と連携しながら、安全安心なたけのこの出荷を支援していきます。



【打合せの様子】

大河原産業高校1年生向け林業PR

大河原地方振興事務所

【26日(水)】

大河原産業高校農業科学科では、2年生から4つある専攻に分かれるため、専攻選択前の1年生80名に対して、専攻の一助となるよう、林業としてどのような仕事があるのかを紹介し、林業関係のPRを行いました。

専攻の予備調査では、森林類型について現在コース上限の20名を超える要望があるとのことで、専攻生の増加に期待しているところです。



【説明の様子】

こけしの材料となるミズキの生育範囲調査(5月からの継続)

北部地方振興事務所

【7日(金)】

こけしの材料となるミズキは、広葉樹林内の一部を形成していることが多く、資源量を把握するためには林内調査を必要としますが、開花時期の5月～6月にかけては、上空から花を目視することによって存在を確認できることから、ドローンを使用した空撮を行いました。

今回、大崎市(旧鳴子町)の4か所で撮影を行い、白い花を目標にミズキの位置確認を実施しましたが、花はわずかししか確認できず、当初考えていたような結果は得られませんでした。

今後は、この経験を活かして、さらに時



【ドローンを使用したミズキ林調査の状況(操縦している様子)】

期等を考慮したドローンによる撮影を行い、ミズキの生育範囲を特定していきます。

小学生を対象とした「おおさき山がっこ」の開催

北部地方振興事務所

【12日(水)、20日(木)】

美里町立小牛田小学校からの森林教室の支援依頼を受け、当事務所の「おおさき山がっこ」登録サポーターとともに学校近くの蜂谷森公園で森林教室を行いました。

天候に恵まれ、真夏を思わせる暑さの中、体験活動を無事に実施することができました。

2年生は、昨年度も同公園での活動を経験していますが、飽きることなく1年生の時の体験を確かめたり、新たな発見をしたりしていました。

学校によると、野外での活動は年々貴重なものとなっているとのことで、今後も支援を継続していきます。



【森林教室の様子】

林業研究会等への支援

北部地方振興事務所

【14日(金)】

鳴子林業研究会連絡協議会及び大崎森林組合青年部鳴子支部、それぞれの総会が行われ来賓として出席しました。

提出された議題については全て承認され、鳴子林業研究会連絡協議会においては役員改選が行われました。

事務所からは、県の施策、来年度（R7）秋に宮城県で開催される全国育樹祭2025のPR等をさせていただきました。

その他、高齢化、後継者不足ではあるも



【総会の様子】

の、積極的に会員の子弟への入会を促す等、会の発展・継続に向けた決意が話し合われました。

「第2回おおさき未来の森づくり2024」への支援

北部地方振興事務所

【16日(日)】

大崎市民に限らず誰もが参加できる植樹イベントとなって2回目の開催。今年度は、大崎市と東京都台東区との姉妹都市提携40周年の記念植樹として、また、来年度(R7)秋に宮城県で開催される全国育樹祭2025の記念行事として実施されました。

当日は、大崎市長の開会あいさつの後、オオヤマザクラ100本、ミズキ230本、ケヤキ270本、参加者186人(うち台東区から15人(区役所7人+親子8人))により植樹が行われました。

事務所からは植樹に使用する鋤を貸し出すとともに育樹祭のPRを行いました。

来年度も隣接区域で植樹が予定されていることから、今後も必要な支援を行います。



【記念撮影】



【植樹の様子と育樹祭PR】

管内菌床きのこ生産事業者に対する経営指導

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【4日(火)】

当事務所管内では、シイタケ、ナメコなど菌床きのこ栽培が盛んであり、事業者により生産された製品は県内の小売店などに出荷され、多くの県民の食に供されています。

近年、国内における燃油高騰、電気料金値上げ、物価上昇、人手不足等が、生産事業経営を圧迫しているのは、当事務所管内の事業者においても同様であり、補助金の活用を提案しつつも、なお一層の経営改善を事業者に求めているところです。

その一環として当事務所では、一部事業者が月1回受けている経営診断(定例指導)に同席させていただき、事業者・中小企業診断士・林業改良普及員の3者で意見を交えなが



【中小企業診断士の指導のもと、生産工程の作業改善について意見を出し合います】

ら、経営改善に向けて取り組んでいます。

当月の定例指導では、事業者の作業班も出席し、各生産工程における作業改善の検討がされ、その後の経営分析作業では、販売単価設定をはじめとする販売収入増加に向けた取組、生産経費削減に向けた取組について話し合い、来月の定例指導に向けた目標を設定しました。

林業教室の实地研修実施

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【12日(水)】

栗駒高原森林組合の新規採用者を対象に、林業教室の实地研修を行いました。受講者は普通高等学校出身であったため、これまで経験していない測量、測樹、間伐、立木評価の4項目をカリキュラムとして実施しました。

測量においては現在GPSが主流となりますが、基本に立ち返り、ポケットコンパスで林内に任意設定した区域を測量し、作図と閉合誤差の修正を経て、区域面積の算出を行いました。

次に、当該区域内のヒノキを全木測樹し、樹高曲線を描いて樹高を算定し、区域内の総材積を算出しました。

間伐においては、密度管理図を用い、収量比数及び立木密度から要間伐本数を算出し、現地において寺崎式間伐により間伐木を選木しました。また、立木評価においては、間伐木を細い率表により仮想採材して素材材積を算出し、市場価逆算式に市況価格、伐木造材費や運搬費、歩留まり等を代入し、立木価格を算出しました。

このように面積や樹高の算出、収量比数から導き出される間伐率の算出など、パソコンソフトに頼らない各研修項目により、基本理論や作業工程等について理解を得た实地研修となりました。



【ポケットコンパスの仕組みについて詳しく説明しました】



【各項目の基本理論について理解を得ました】

森林経営管理制度・森林環境譲与税の活用に関する打合せ

東部地方振興事務所

【4日(火)、5日(水)】

各市町において、森林環境譲与税を財源とした森林経営管理制度の推進を図るため、令和5年度の実施状況や令和6年度の実施計画について、打合せを行いました。

特に市町村伴走支援を希望している女川町においては、進捗状況に応じた課題の洗い出しを行い、業務の効率化を図られるよう「森林経営管理市町村業務参考資料」を活用し、意見交換を実施しました。

今後のスケジュールや必要な事務手続き等の情報共有ができたことから、円滑かつ適切に取組が実施されるよう、支援を行っていきます。



【打合せの様子】

特別防除現地立ち合い

東部地方振興事務所

【10日(月)～12日(水)】

管内市町の沿岸景勝地及び離島で例年実施されている、松くい虫防除のための特別防除（ヘリコプターによる薬剤空中散布）について、事業発注者である森林整備課森林育成班や市町、受託者と連携しながら、事業の円滑な実施のために指導を行いました。

事前に関係者への周知や説明会を行っていたこともあり、当日はトラブルなく予定した散布作業を実施することができました。

各普及指導員も各現場で立会を行い、散布時間中の釣り人へのアナウンスや、散布区域外に薬剤飛散がないことをモニタリングするなど、円滑な業務実施を支援しました。

引き続き、松くい虫被害の減少に向け、市町や関係者と連携しながら各事業に取り組んでいきます。



【ヘリコプターによる薬剤空中散布】



【関係者を集めた前日の打合せ】

津山小学校林業体験学習支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【13日(木)】

津山町林業研究会が林業後継者育成を目的として行った林業体験学習（林業体験）を支援しました。

日頃、目にすることが少ない山土場に積まれた丸太やハーベスタを見ながら木材生産の解説を聞き、実際の間伐現場で高性能林業機械（グラブプル）の実演を見ながら間伐の解説を聞くことで体験学習として実体験を伴う学習の時間となりました。また、少花粉スギ植栽地では少花粉スギとコンテナ苗生産の資料を活用しながら解説を行い、花粉症対策についても理解を得ることができました。



【少花粉スギ植栽地における解説】

気仙沼産メンマの販売

気仙沼地方振興事務所

【21日(金)】

管内の特産品PRを兼ねた地場産品直売会が気仙沼合同庁舎において開催され、気仙沼産メンマの販売を行いました。

当日は、味付メンマ10パック、乾燥メンマ20袋を販売したところ、味付メンマは販売開始から5分ほどで完売。乾燥メンマも1時間ほどで完売しました。

味付メンマについては、販売数が少なくなりましたが、調理工程において、乾燥メンマを戻す工程が2晩かかるため、一度に大量に調理するということが難しいという、新たな課題が生まれました。

今後は、地元直売所等で少量でも定期的に販売を続けることや、乾燥状態での販売についても検討することにより、メンマの販売体制を確立してまいります。



【販売の様子】



【乾燥メンマ】

宮城県農林種苗農業協同組合迫支部との合同意見交換会の開催in気仙沼

気仙沼地方振興事務所

【13日(木)】

宮城県農林種苗農業協同組合迫支部に対して、苗畑に精通していない職員等を対象とした、苗畑を見学する機会を作れないか相談したところ、迫支部管内の2生産者の苗畑を見学するとともに、関係者間で意見交換を実施することとし、まずは気仙沼管内で苗畑見学を含めた合同意見交換会を実施しました。

今年度からは、苗畑調査は書面調査となり、苗木生産者との関係も希薄になりかねないところでしたが、本意見交換会を開催することで、迫支部苗木生産者との連携強化と情報収集を行うことが出来ました。

また、意見交換会では、参加者（苗木生産者・林業技術総合センター・森林整備課・事務所）から活発な意見が交わされ、有意義な情報交換の場となりました。

なお、次回は登米管内で開催することとして、今後は様々な地域での開催も検討し、苗木生産者との交流を深めていきたいと考えています。



【意見交換会】



【コンテナ苗抜き取り機の操作体験】

令和6年度林業普及指導員育成研修

林業技術総合センター

【24日(月)】

林業普及指導員から2名の研修生を得て「林業白書、森林法、森林・林業基本法及び林業普及指導事業運営方針」の変遷について学び、これからの林業の推進方策について検討を行いました。

7月には、知識が正しく身につくよう、上記の課題について検討するとともに「森林・林業基本計画」の前計画との相違点について学ぶ予定です。

今後も林業普及指導員の資質の向上に務めます。



【研修の様子】

